



創 立 昭和32年4月19日
会 長 藤 岡 宏 章
会長エレクト 菅 生 康 清
副 会 長 高 橋 靖
幹 事 関 俊 昭
広報会報記録 中 林 隆 男



事務局 (例会場)

橿原市久米町 652-2
DAIWA ROYAL HOTEL THE KASHIHARA 4F
TEL/0744-28-2801 (直通)
FAX/0744-28-2802
E-mail/krc@jeans.ocn.ne.jp
TEL/0744-28-6636 (ホテル)

例会日

毎週金曜日
12時30分~13時30分

Vol. 61 No. 41 (2017-18)
2018(平成30)年5月25日発行

5月は、「青少年奉仕月間」(Youth Service Month)です。

第2977回例会報告書

2018(平成30)年5月18日

司会 副SAA・尾上隆志会員
R.song 我等の集い
ソング・リーダー 尾田肇睦会員
ピアノ奏者 廣畑弥生さん
スマイル
おおかみこどもの雨と雪

ゲ ス ト

卓話講師: 橿原市総合政策部地域創造課 課長 若森睦司様
講師随行: 橿原市魅力創造部 部長 山崎貴浩様
橿原市総合政策部地域創造課 課長補佐 淵上 暁様

出席報告

正会員 45名 (5/18) 出席者 33名 出席率 84.62%
正会員 44名 (4/27 補正) " 28名 " 75.68%

ニコニコ箱

◎健康に感謝して。……………里田 好会員
◎結婚記念日お祝い
民谷浩一会員 (5/21)

会長挨拶

○皆様こんにちは。昨日から報道されているが、西城秀樹さんが亡くなられた。年齢が63歳で、私とほぼ同じ年代だ。17歳ごろに歌手デビューされ、現在までの長い間、ヒット曲を生み出してこられた。今では当たり前となったが、ゴンドラに乗ってコンサートを行うなど、さまざまなことをされてきた。本当に残念に思う。



また、日大のアメフト選手が悪質な反則行為を行ったということも頻繁に報道されている。タックルされた選手は全治3週間の怪我だそうだ。監督の指示があったのかどうかも問題視されているが、もし指示があったならば、教育する立場にある方がそのような指示をするのはどうなのかと思った次第だ。
○本日は例会後に新旧合同クラブアッセンブリー並びに次年度第1回クラブアッセンブリーを開催する。新旧合同ということで長時間になるかもしれないが、理事役員・委員長・地区出向委員の皆様、入会3年未満の方々のご出席頂くようよろしくお願いしたい。
○次週5月25日(金)は郡山安積RCから14名がこちらにお越しになる。姉妹クラブ締結調印式を行うので、一人でも多くご出席頂くようよろしくお願いしたい。

幹事報告

(代読: 下辻真人副幹事)
△新旧合同クラブアッセンブリー並びに次年度第1回クラブアッセンブリーについて
日時: 本日5月18日(金) 例会後
場所: 「明日香・浄御原」の間
本年度・次年度の理事役員・委員長・地区出向委



員の皆様、入会3年未満の方々はご出席頂くようよろしくお願いしたい。なお、委員長が欠席される場合は、必ず副委員長もしくは委員が代理でご出席頂くようお願いしたい。

△次週5月25日(金)は郡山安積RCとの姉妹クラブ締結調印式の為、夜間例会(18:00開会)。お間違えのないようよろしくお願いしたい。

△地区より、ガバナー月信5月号7ページの訂正記事をポスティングしているのでご確認頂きたい。

△平城京RCより、奈良テレビで放映された映像を収めたDVDが届いており、事務局で保管している。興味のある方はご覧頂きたい。

委員会報告

○会長エレクト：菅生康清会員

・本日例会後に新旧合同クラブアッセンブリー並びに次年度第1回クラブアッセンブリーを開催する。長丁場になるが理事役員・委員長・地区出向委員の皆様、入会3年未満の方々はご出席頂くようよろしくお願いしたい。

・郡山安積RC訪問について

訪問日：6月12日(火)～13日(水)

旅費：約5万円(往復の飛行機代と宿泊費用)

昨日、ご案内をFAX・メールにてお送りし、本日ポスティングもしているが、上記日程にて郡山安積RC訪問を計画している。次週、郡山安積RCから14名と多数お越しになるので、我々の方からでもできるだけ多く参加したいと考えている。会長は体調の面を考慮し、参加できないとのことなので、会員の皆様には是非奮ってご参加頂くようよろしくお願いしたい。

卓話

担当：平田博也会員

講師：橿原市総合政策部地域創造課 課長 若森睦司氏

「橿原市のまちづくり」

- ・橿原市とは、こんな『まち』
- ・本市の地方創生の取り組みとして、まち・ひと・しごと創生総合戦略を平成28年3月に策定、その紹介
- ・「ならモデル」をご紹介

奈良県の面積と人口は、日本の国土と総人口の約1/100となり、さらに橿原市は、奈良県の面積の1/100。県人口の1/10。

次に広域的な交通面。京奈和自動車市域を縦断。京奈和自動車道は、京都・奈良・和歌山を結ぶ延長120kmの高規格幹線道路であり、また第二名神高速道



路、山陽自動車道、神戸淡路鳴門自動車道、紀淡連絡道路とともに、関西の外側を結んだ環状道路として、1周約300kmの関西圏の大環状道路を形成。産業振興面や防災面での広域的なネットワークが形成される。昨年の8月19日に橿原高田インターから和歌山市まで開通。

今後の予定は、橿原北インターから橿原高田インターまでの間は、中和幹線、近鉄大阪線を地下のアンダーで。JRまほろば線や大和高田バイパスの上をつなぎ、平成39年度に開通を目指すものと聞いている。

本市の交通事情。道路は24号、165号、166号、169号と東西南北に国道があり、鉄道は近畿日本鉄道、JR合わせると13駅ある。ちなみに、人口密度ではなく鉄道密度(鉄道数/行政面積)では、本市は0.33箇所/km²、奈良市0.05、生駒市と大和郡山市が0.16となっている。橿原市は鉄道に恵まれていることが数値で分かって頂ける。

歴史的資産も豊富。名勝指定をされている大和三山、特別史跡である藤原宮跡や本薬師寺、天皇陵である御陵も、初代の神武天皇陵をはじめ、2代、3代、4代、8代、28代と市内には6代の御陵がある。

平成5年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された江戸時代の景観が色濃く残る今井町。さらに江戸時代をさかのぼり西暦600年ごろになる。この時代は飛鳥や藤原京の時代。聖徳太子と蘇我馬子の二人の大物政治家と協力体制を築き、有能な人材を登用するために冠位12階や、豪族や役人のあり方を示す17条憲法を制定し国家の礎を築いた推古天皇などの時代。694年に日本最初の本格的な都城となる藤原京が誕生し、大宝律令が制定される。ここで、初めて日本という国号が記され、遣唐使派遣の際に「倭」から「日本」という呼称が認められたということから「日本国 はじまりの地 かしはら」をキャッチフレーズ。

このような背景の時代に、推古天皇のほか5人の女性たちが活躍した飛鳥時代の物語「日本国創生のとき」ということで、平成27年4月に日本遺産第1号として認定。続いて平成29年4月には、竹之内街道・横大路が1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」として日本遺産に認定。もっと時代をさかのぼって…

弥生時代中期、紀元前1世紀ごろ

⇒これは、神武生誕のころの時代

⇒九州北部地方で弥生式稲作の先進地帯

⇒人口爆発 ⇒東にフロンティアを求める
⇒情報通の塩土の老翁（しおつつのおじ）
⇒「東に美（よ）き地（くに）有り、青山（あおやま）
四周（よもにめぐり）れり」（日本書紀）
⇒東遷プロジェクトを実行
⇒紀伊半島に上陸
⇒アマテラスの剣とヤタガラスの導き
⇒金のトビの登場
⇒大和橿原の地で、初代天皇に即位
⇒大和の国の建国
ヤタガラス：皇室の守り神、熊野神社の象徴、
日本サッカー協会のシンボル
「よみがえる神武天皇—日本書紀の暗号を読み解く」
牧村健志著

本市は、神武天皇をはじめ6代の天皇陵があり、神武天皇陵をご祭神とする橿原神宮など、大変な歴史資産がある。

そして現在。
総務省の統計調査による人口推移
子供の割合が、37年連続で減少。

昭和29年のピーク値は2,989万人、昭和46～49年の第2次ベビーブームの頃いったん増加したが、昭和57年から減り続け、平成30年では1,553万人と約半数。

国勢調査と人口推計から、年齢3区分別（15歳未満、15～64歳、65歳以上）人口の割合推移を示している表によると、顕著に少子高齢化が進んでいる。

また、他のデータになるが、人口4000万人以上の諸外国と比較しても、日本の子供数の比率12.4%はワースト1位。

本市でも、大阪のベッタウンとして人口が増え続けてきたが、平成22年をピークに微減し始めている。

国立社会保障・人口問題研究所の発表によると、このままの推移では、2060年（40年後）には、今の12.6万人から8.5万人まで減少するとされている。

そこで、40年後の人口として10.4万人を維持しようということで様々な施策の基となる橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。

総合戦略の経緯は、平成26年11月に国で、「まち・ひと・しごと創生法」が施行。平たく言いますと、まちにひとを集めるためには、各地方の都市が色々考えて、努力しないと生き残ることはできないよ。国は、考える自治体には、協力するけど、これからの時代は、国におんぶに抱っこではいけないよ。というもの。

そこで、市が目指すべき方向性と将来展望を定めるため「橿原市人口ビジョン」を策定し、また、それを実現するためのさまざまな方策を具体的に示す「橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を併せて策定した。地域創造課では、この取組みのなかで

「橿原への移住を促進する」
「多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくり」
「医学を基礎としたまちづくり」
大きくは、4つの柱。
「地域の特性を活かしたしごとをつくる」
「新たな人の流れや交流を増やす」

「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」

「安心して便利に暮らせるまちを作る」
これらの4本柱を軸にさまざまな取組みにチャレンジ。

奈良県と県内市町村、市町村同士が連携・協働して行政の効率化や地域の活力の維持・向上を図っていく、奈良県という地域にとって最適な地方行政の仕組みを目指す取組。

このモデルをされた背景としては、
・奈良県は市町村合併があまり進まず、また、これ以上の合併が進むことは期待できない。

（H11：47市町村 ⇒ H22：39市町村）
・小規模で財政基盤の弱い市町村が多く存在
39市町村のうち人口1万人未満の町村（H22国勢調査）18

財政力指数（H24～H26平均）が0.2未満の町村10
※奈良モデルの検討を始めたH20年度の状況
県内市町村の経常収支比率の平均は98.4%（全国47位）7市町村が赤字団体

⇒消防の広域化
⇒水道事業の連携
⇒ごみ処理体制
⇒地域交通

また、し尿処理の方法は、3次まで処理をしたあと、河川に放流していましたが、奈良県と調整し、昨年の6月に2次処理したあと、公共下水道に放流し、3次処理を省くことができ、これからのメンテにかかる費用が低減。

特に県と本市のまちづくりについては、平成27年（昨年の）3月に「まちづくりに関する包括協定」を締結。

たくさん地域資源があります。
さまざまな観光資源があり、市内には13の鉄道駅があり、橿原には高度医療拠点である「医大」がある。このような、それぞれの地域資源をつなげて、効果的に活用しまちづくりに活かしましょうという考え方。エリア的には、大和八木駅周辺地区、医大周辺地区、橿原神宮前駅周辺地区としており、地区毎の取組みを少しご紹介。

大和八木駅周辺地区のまちづくり。
観光庁のHPより抜粋したデータによると、2013年に初めて訪日外国人数が1000万人を超える。2015年の訪日外国人旅行者数は前年比47%増、1,973万7千人。（45年ぶりに訪日外客数と出国日本人数が逆転）右肩上がり増加。2017年の速報値では、2800万人を超えている。国は、2020年には4000万人を目指すとされている。観光は、成長戦略の大きな柱、地方創生のひとつの切り札。

都道府県別の魅力度ランキング。いろいろな項目で調査された結果だが、これによると奈良県は、北海道や京都、東京などについて、全国6位。大阪や神戸がある兵庫より上位。ただ、宿泊施設の客室数が最下位。同様に、宿泊者数も下から2番目。

そこで、ミグランス。さまざまな観点から議論を尽くされているが、やはり、観光のことを考えると、ホテルの建設というのは必要であったなど。10年先20年先に言ってもらえるように努力しているところ。八木の周辺は、夜の飲み屋街の様相を呈していますが、それでも、橿原市の商業地の地価の平均変動率よりアップしていることが確認。八木周辺のにぎわいとなる指標のひとつ

医大周辺地区のまちづくり。4月19日の奈良新聞に、県の平均寿命が掲載。男性81.4歳、女性87.3歳。1950年、昭和25年は、60歳前後。2000年、平成12年は男性77.72歳、女性84.60歳。医療の発達が目覚ましい証。

長寿命の次は健康寿命。健康で自立した生活ができる期間を表すが、都道府県順位では男性が第3位。橿原市でも、「健康」に着目したまちづくりを展開。

皆様もご存知の通り医科大学付属病院、全科が揃った高度医療まで行う特定機能病院。

※2015年6月現在、84施設となっている。一般の病院などから紹介された高度先端医療行為を必要とする患者に対応する病院として厚生労働大臣の承認を受ける。一般の病院としての設備に加えて集中治療室、無菌病室、医薬品情報管理室を備え、病床数400以上、10以上の診療科、来院患者の紹介率が30%以上であることを条件としている。

1日に訪れる外来の患者さんは約2000人、入院されている患者さんは約900人、職員数は2600人、学生数1100人、その他お見舞いにこられる方を含めると6000人から8000の方が利用。

奈良県唯一であるこの医大は、この医大が、さらに高度医療病院として、再編されるとともに奈良県立医科大学が、元の農業研究開発センターの敷地に平成36年度に一部先行整備されることを公表。そのことを受けて、市としても新しいまちづくりの契機として、またそのまちづくりの中心に新駅があることは自然なこととして捉えているので、近鉄と奈良県と平成27年末から3者協議をすすめている。

医大付属病院に隣接する新駅ができると、その周囲には、医療や福祉、研究といった分野のまちづくりを期待しているところで、どのような機能がふさわしいか、8月ごろから市民ワークショップを開催して幅広く意見を聴き、その意見を本年度奈良県で作成される医大周辺まちづくりの基本構想に盛り込んでいきたいと考えている。また、新キャンパスへの動線が弱いことから、現道を拡幅するような道路整備に既にとりかかっている。

医大周辺のまちづくりを具体化、実現化するために奈良県、奈良県立医大とそれぞれ包括協定を締結し、まちづくりを進める。

橿原神宮前駅周辺地区のまちづくり。平成28年4月に県下最大級の群集墳である史跡・新沢千塚古墳群の自然豊かな空間を活かした新施設「シルクの杜」がまた、農産物の直売所からなる集客施設「新沢千塚ふれあいの里」がオープン。橿原神宮前駅中央出口を拠

点として、省エネ・少子高齢化時代の「新たなカテゴリーの乗り物」として期待されている「超小型モビリティ」のレンタカー事業を開始。平成28年3月に、新しく県道橿原神宮東口停車場飛鳥線が開通したことで、「飛鳥地方」への観光の玄関口として非常に期待が持てる。

おわりに。今までの右肩上がりの時代は、行政主導で道路や公園などをどんどん作っていましたが、いまの日本は世界でも類をみない人口の減少や少子高齢化時代に突入しており、今後どのように生き残っていくか。だれも明確な答えは持ち合わせていませんし、特効薬的なものはありません。

ただ、本市の持つポテンシャルは相当あります。他にはない、本市独自の歴史資産。奈良県立医科大学の存在。広域交通の結末点。観光資源。これからのまちづくりはこのように、さまざまな分野との連携、また近隣市町村との連携が欠かせません。

これらの原石を磨き上げてシティセールスにより知名度をあげて、ブランディングする必要があります。そのためには、何より、地元地域の方々のご協力なくして、まちづくりはできませんので、今後ともいろいろとご教示願えれば幸いです。

【例会ご案内】

6月1日(金)《第1例会》
「奈良県のまちづくりについて」
奈良県知事特命参与 金剛一智氏
担当：中井康允会員

6月8日(金)《第2例会》
担当：関 俊昭会員

6月15日(金)《第3例会》
「昨今の弁護士事情」
担当：松岡康毅会員

6月22日(金)《第4例会》
フォーラム

6月29日(金)《第5例会》
夜間例会
会長・幹事退任挨拶

【同好会】

書道同好会

6月1日(金)・6月8日(金)
午後2時～ 於：4階 楓の間

【RAC例会】

〔橿原オークホテルにて、午後7時半～9時〕

6月6日(水)《第1例会》
考えを言語化する例会
20:00開会、21:15閉会

6月16日(土)《第2例会》
最終例会
18:30開会、20:30閉会

※卓話資料はデータでの提出をお願い致します。